

濃い大学4年間を過ごすために

経営情報学部4年 砂谷 泰輝

大学4年間で必要なことは、「とにかく色々なことを経験すること」です。

私は、大学生活でとにかく色々なことを積極的に経験してきました。その経験から今回、経験することの重要性をお伝えします。

まず、私はとにかく好き嫌いを言わずになんでもやりました。アルバイトや読書、趣味、就職活動など幅広くちょっと面白そうなら始めて、とりあえず行動してるような生活を送っていました。特に聞きたいのは就職活動のことだと思うので、就職活動を例に挙げますが、就職活動では、ほとんどの業界のインターンシップ・説明会に参加しました。金融、アパレル、食品、自動車、IT、総合商社、専門商社、ベンチャー、インフラなど、幅広くなんでも参加しました。その結果、幅広く知識が身につく、世の中のお金の流れ、社会的役割など新しい発見があり、とても楽しく学ぶことができました。

なぜなんでも経験し、チャレンジしてきたかという、「自分の可能性を広げたかったから」、「人生をもっと楽しみたかったから」です。世の中には、空気を読まないといけない、これが常識だ、こんなことできるわけがないから安定を選ぶ、と口にする人がほとんどだと思います。それができれば無難に働いて生きていけるからです。私はそれは間違いだと思います。自分が正しいという確信・事実・根拠があるのであれば空気を読む必要はないし、常識を覆して成功している経営者もいれば、皆が無理だということを成し遂げた者もいます。そのように「人生に絶対はない」です。自分の人生は自分で決めればいいですし、一人一人個性があり、色があるのが人間です。

だからこそ、色々な経験ができる大学生活を通して、なんでもチャレンジして、自分がこれだ！というものを大学生活で見つけてもらいたいです。そして、これだ！と思ったものに誇りを持って、一生懸命諦めずにやってほしいです。それが自分の人生だと思いますので、とにかくなんでもチャレンジしてみてください。チャレンジすることは勇気のいることですが、自分を信じて、死ぬことに比べたら余裕だと思えばなんでもできますので、頑張ってみてください。必ず何か変わると思います。

最後に、コロナ禍で「課題解決力」、「新しいことを創る力」が重要だということがあからさまになりました。たくさんの会社が倒産し、たくさんの会社が経営悪化しています。一方で、コロナ禍で成功した会社もあります。あまり良くない方向に向かってしまった会社の原因は、新しいことにチャレンジしないのと、既存の枠組みに囚われていること、問題を理解し、解決できていないというのが原因だと思います。正直それを考えることは難しいです。

ですが、その2点がしっかりと学べるのが多摩大学だと思います。本質的な問題は何か、どうすれば解決できるのか、相手は何を1番求めているのか、しっかり勉強すれば感覚的にわかってくると思います。多摩大学はたくさんの可能性があり、たくさん実践的に学べます。私達には私達の武器があり、他人と比べる必要はありません。たくさんのご経験を、たくさん遊び、食べて寝て、多摩大学で学んだことと、自分の武器を掛け合わせてこれからの人生で活躍してほしいです。大学生活楽しんでください。



所属する下井直毅ゼミでの一枚



働きながらプロボクサーを目指します

たくさんの愛と感謝を

グローバルスタディーズ学部 4年 遠藤 日向

大学名を間違えて入学した多摩大学。たくさん笑って悩んで、無我夢中に走り続けた4年間で、一生ものの仲間に出会うことができ、そして『教員採用試験合格』という結果を残すことができました。

「何か全力で頑張りたい」という漠然とした想いを抱いていた私にとって、ボランティアサークル Realize への加入は大学生活で1番良かったと思える選択です。特に地域の方との英語教室では、目の前の子どもたちが笑顔になる瞬間に立ち合う喜びを知り、教員を志すきっかけになりました。また、仲間と協力して成し遂げたときの達成感や無限大の可能性を知ることでもできました。私にとって Realize は第2の家族です。心強い仲間が側にいてくれたからこそ、立ち足はだかるいくつもの試練に全力で立ち向かうことができ、失敗した時もその事実と向き合っただけで次への学びに生かし、前を向くことができたのだと思います。

教員になることを決断したのは4年の春。転機になったのが、よこはま教師塾アイ・カレッジへの入塾です。教員を目指す仲間と共に学び合い、多角的な考えを取り入れられる環境は刺激的でした。また、実際に中学校の現場に入り、アシスタントティーチャーや部活動指導員を経験し、子どもと接する面白さと難しさを感じました。このような経験を通して、自分らしい「笑顔・愛溢れる教師」になりたいと強く思うようになりました。教員採用試験などの勝負に挑むときに大切にしていたことが2つあります。1つ目は準備。時間をかけて準備することで、あがり症の私でも心に余裕を持つことができ、より良い形で自分を表現することができるようになりました。2つ目は一人で戦わないこと。誰かと一緒に取り組んだり練習したりすることで、様々な視点からの考えを吸収することができ、より深い学びへと繋ぐことができます。また、競争心が芽生えるだけでなく、くじけそうなきも「あの子が頑張っているから私も頑張ろう」と気持ちを保つことができました。

私が教員採用試験に合格することができたのは、紛れもなく周りの人のたくさんの支えがあったからです。いつも応援くださった安田学部長、しぶとく練習に付き合ってくくださった廣田先生、山田先生、精神的に支えてくれた仲間と後輩のみんな、本当にありがとうございました。感謝の気持ちを忘れず、春から新たな一歩を歩み始めます。1人じゃないことへの心強さ、無限大の可能性、そして誰かと分かち合える喜びを今度は生徒たちと共に感じ、成長していきたいです。

「愛情を持って子供たちと向き合える人」になれるようこれからも笑顔いっぱい生きていきます！最後に私が大切にしている言葉を皆さんに送ります。“Love the life you live. Live the life you love.”（あなたが生きるその人生を愛し、あなたが愛せる人生を生きなさい。）皆さんの未来に幸あれ！



Realize での英語教室



廣田先生と教職課程の仲間



大好きな 10 人

夢のために

グローバルスタディーズ学部 4年 松本 元紀

SGS は皆さんが思い描いている将来の夢へのチャンスがたくさんある大学だと思っています。4年間を通して様々な事に挑戦し沢山の人と出会い、学びました。それが、夢だった「ホテルマン」になる事が出来たことに繋がっていると実感しています。特にオープンキャンパススタッフと学園祭実行委員長、インターンシップの3つは4年間の中でかけがえのない貴重な経験になりました。

そもそも、オープンキャンパススタッフを始めたきっかけは入学時に抱いていた客室乗務員になるという夢を叶えるためにコミュニケーション力と対応力を高めたいという思いで始めました。沢山の高校生、保護者の方とただ大学内の案内や紹介をするだけでなく、普段の学生生活や互いの部活の話、大学生活を目の前にして心配なことはないかなど様々な会話を通してその時間を楽しんでいただけたような交流をしました。距離が近いのはSGSらしいところだと思います。また、セクシオンリーダーを経て後輩育成や臨機応変に対応できる力を身につけることもできました。

学園祭実行委員長を務めた年は本当に大変であったという間で。突然の委員長就任を依頼され残された少ない時間で当日まで各部門のメンバーと連携して作業を進めていきました。組織のトップに立つ事の厳しさ、周りからの期待、様々な要望に応えなければならぬプレッシャーに押し潰されそうになりました。時には周りが見えなくなり先輩とぶつかったり、サークルのメンバーと話し合ったりと、決して1人では成し遂げる事が出来なかったと思います。しかし実行委員長を経て将来人の上に立った時に役立つ経験ができたのではないかと思います。

そしてインターンシップは10日間のみの活動だったので少し悔いが残っています。高校の時にも経験したホテルでインターンシップを行いました。新型コロナウイルス感染症拡大によってお客様も少なく、感染リスクと隣り合わせになりながらのホテルでの仕事を体験しました。普段経験する事が出来ないうし、私たちが目にしてきて、想像していたホテルマンの仕事とは少し違っていました。しかし、一人ひとりのお客様との時間が長くなるので、より丁寧なサービスを学ぶ事が出来ました。また、お客様が少ない時間帯は1人になる事が多いので自分にできる仕事を探すことが多くなりますし、いろいろな先輩方のサービスを学ぶいい機会でした。

SGS は様々なイベントがあります。様々な授業があります。インターンシップや就職活動への支援がとても手厚いです。自分には無理だからと決めつけるのではなく、まずはチャレンジしてみてください。少しくらいわがままでいいと思います。私自身も中学からずっと自分のやりたいことをさせてもらってきて今があるので全力で体当たりして行ってほしいです。安田学部長を始め沢山の教職員の方々に支えられながら楽しい大学生活を送ってきました。卒業まで残り少ないですが、悔いなく楽しく自分らしく過ごしていきたいです。そして、ホテルマンとして活躍して恩返りできるようにしたいと思います。



学園祭スタッフとしての写真



私を4年間支えてくれた大切な仲間たち



オープンキャンパス時の集合写真